

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(中ノ町小) 学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- 2年を経過し、意見交換が活発になりよい熟議ができている。これを踏まえ、
- 学校教育目標の実現に向け、教育活動の充実につながる具体的な支援活動に結び付ける。
- 保護者・地域・学校のつながりが重要であることを再度認識し、三者への情報発信を積極的に行い、一体となり子供への教育を進められる体制を模索する。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 3年目を迎え、互いの信頼関係の下、委員同士が何でも言い合える関係になり、昨年度以上に活発な熟議・意見交換をすることができた。
- 学校運営の基本方針について児童の表われをもとに熟議し、委員会全体で共有することができた。委員からさらに踏み込んだ建設的な意見を多く出せるとよかった。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 学校の現状・課題と解決策についての熟議を十分にした。これが授業をはじめとした教育活動の充実、登下校の安全等への施策や対策につながった。
- 具体的な学校支援活動につなげるためには時間的な余裕が必要である。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- CS便り(年間3回)、学校HPなどで情報発信をした。また、委員により差はあるが、それぞれの立場を生かし地域に熟議内容を報告し、支援活動につなげることができた。
- 家庭、保護者の理解・参画につながる発信を考えたい。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- 3年を経過し、意見交換が活発になりよい熟議ができている。第2期を迎え、委員が若干入れ替わるが、引き続き以下を課題としていく。
- 学校教育目標、特に重点目標の主体性を育むことの実現に向け、教育活動の充実につながる具体的な支援活動に結び付ける。
- 保護者・地域・学校のつながりが重要であることを認識し、三者への情報発信を積極的に行い、一体となり子供への教育を進められる体制を模索する。